バス停名あれられ

り、 といえます。 南北に通る高尾街道を中心に発展してきた 挙げてみましょう。 でもその前に両街道に 名前が付けられています。 ついて考えてみます。 元八王子地域は、 停留所にはその周辺の地域を象徴する この両街道はバス路線でもあ 東西に通る陣馬街道と そのいくつかを

四谷町、 かれ、 恩方から白炭、柏葉などの物資が江戸に運ば 県に通じ、 方、下恩方、などを経て和田峠から神奈川 道 一四〇号線です。追分で甲州街道から分 野川往還・案下道・甲州裏街道などと呼ば する街道です。江戸時代、 にその名を陣馬街道と定められました。 れていましたが、昭和三十八年(一九六三) 陣馬街道は、 日吉町を抜け、 諏訪町を通り、 上野原宿で再び甲州 恩方街道 横川町、 切り通しから西寺 •甲州脇往還 上野原宿周辺や 街道に合流 大楽寺町、 · 佐 都

> 陣馬街道が頻繁に使われたそうです。 道 が れました。甲州街道を利用すると宿継 !を利用すれば宿継料金がかからない かかりますが、 裏街道といわれる陣馬街 料金 ので、

点として北進し、元八王子町、 京オリンピックでは自転 流します。昭和三十九年 り犬目町などを経て戸吹町で滝山街道に合 して使われました。 高尾街道 は甲州街道 の J R 車 (九六四) 高尾駅を起 四谷町を通 スの道路と の東

切り通し」

このカーブ地点の南側の山王林山の頂上に に入るところは、左に急カーブしています。 は日枝神社が祀られています。 陣馬街道が元八王子地域を抜け恩方地域 日枝神社の



山を切り開 道は狭く両側が崖で、 南崖下に陣馬街道 まさに 旧道があります。 っています。 切 り通 いた形 大正時代 しにな この \mathcal{O} \mathcal{O}

> 街道を迂回させました。 をはかるため山王林山の裾を廻る形で陣馬 (1九 一二~ 一九二六) に自動車交通の 切り通し」から採ったものでしょう。 バス停名は旧道 便

神戸

「神戸っ原_



切り通し」から東側は

という原っぱで、 だけでなく町会の りませんが、 が広がっていまし 戸」の名はバス停 は 一面の桑畑と麦畑 町の名として 神戸」はあ 神

名ともなり地元に 上壱分方町神戸町会」があります。 「大楽寺町神戸町会

横川

のバス停の左側が横川家です。 のひとつ手前にこのバス停があります。 陣馬街道を八王子市 街 介向 かうと水無橋 横川家は、



棋子の生家とし 育に 校するなど女子教 高 知られています。 八王子女学校を開 校 貢献した横川 の前身 であ 7 る



されています。

「慈根寺」



も書いたそうです。 高尾街道沿い にあるバス停。元八 八王子小学校 王 子町の古名を ス停の名は元八 神護寺村」とい 「神宮寺」と の前 の元

王子町の古名を採ったものでしょう。

石神坂』

と 尾街道のバス停 「元八王子二丁目」の間にあるバス停 「元八王子一丁目」



ます。 だ 向 高尾街道をはさん 位置より五十メー 拡張工事に伴い旧 地蔵が祀られて 社がありますが、 ルほど南に移設 かい側に石神 高尾街道の

鍛冶屋敷

治初期にわたり、山本但馬周重を祖とする した。 永正年間 高尾寄り隣のバス停が 元八王子町鍛冶屋敷を拠点に活躍していま 刀工たちが八王子市下恩方下原、横川町下原 高尾街道のバス停 (|五〇四~ |五二 |) 頃から明 元八王子二丁目」の 「鍛冶屋敷」です。

り 郎安國鍛刀之地」 かり行くと左側角に このバス停の信号を西に入って三十段 その脇に自然石の碑があります。 の縦長の大きな石碑があ 「市史跡刀匠武蔵太 前者

> 冶屋敷」という町名はありませんが、 とをたたえる文章が刻まれています。 蔵太郎安國がここで刀鍛冶をおこなったこ 後者は昭和六十一年に横川町の個人によっ は昭和四十六年に八王子市教育委員会が、 て建てられたものです。 いずれも、 刀匠武 「 鍛

近くに日枝山

王

